

### 第 3 回 2017 年 6 月 14 日 (水)

第 3 回の一류塾では、講師に大山健太郎氏 (アイリスグループ 会長) と八木洋介氏 ((株)people first 代表取締役、前(株)LIXIL グループ 執行役副社長を、懇親会の特別ゲストには武田信二氏 ((株)東京放送 (TBS) ホールディングス 代表取締役社長) をお迎えしました。



【講師 大山氏】

第 1 部では、『変化対応の経営』と題して大山氏が講義を行いました。前半では、「いかなる時代環境においても利益の出せる仕組みを確立する」ことを実現し続けてきたご経験をお話し頂きました。IoT やロボットなどの進化や流通業界の大きな変化が起こるなか、メーカーベンダーとして新しい需要を生み出し利益を出し続けるために、ものづくりやロジスティクスなどのイノベーションを大胆に推し進めている実態を、具体例を交えてご紹介頂きました。後半では、「働く社員にとって良い会社となる仕組み作り」についてお話し頂きました。成果主義ではなく、実績と能力に焦点をあてた評価制度や育成制度、年功に縛られない柔軟な昇格制度、実績を上げた社員に十分に報いる報酬制度など、社員の働く意欲を高め、成長を支援する仕組みと実行についてご紹介頂きました。塾生からは、「メーカーベンダーとして、変化を恐れない信念、判断力、行動力に感銘を受けた」、「こんな経営者になりたいと久しぶりに思えた」、「流通の壁を超える考え方には、あきらめがちな現状に大きな刺激となった」といった声があがりました。

第 2 部では、『人で勝つ』と題して八木氏が講義を行いました。冒頭、日本の多くの企業では「物事を決められない・遅い」ために、「勝ち」の定義すら決められず、人事がビジネス戦略を実現するように機能していないとの問題を示されました。そのうえで、「勝ち」の定義は最高のパフォーマンスであると定め、人事の仕事は社員の活力を最大限に引き出すことと位置づけ、戦略人事を展開されてきたことを具体的な事例と共にご紹介頂きました。講義の後半では、リーダーの育成についてお話し頂きました。本物のリーダーは、明確な価値観、軸、使命感を持ち、それらを原動力に自分自身をリードできることが不可欠であるとご説明頂きました。自分が信じるものを実現したいと思い行動することで、周囲が信頼しついてきてくれるようになり、さらに経営リテラシーを鍛えることで、効果的にチームをリードできるようになるとご説明頂きました。塾生からは、「自社も「勝ち」の定義が曖昧だと気づき愕然とした」、「100 点ではなくても 10 点の変革ならできる、今すぐやるべきという言葉は胸に響いた」などの声があがりました。



【講師 八木氏】

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶ならびに、懇親会からご参加頂いた一流塾特別顧問の斉藤惇氏 ((株)KKR ジャパン会長、前(株)日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループ CEO) による乾杯の後、特別ゲストの武田氏から『メディアの力と限界』と題して卓話を頂きました。武田氏からは、インターネットによるメディア業界の大きな環境変化について、様々なデータと共にご紹介頂きました。そのうえで、新聞と同様、テレビは全ての年齢層で信頼度が高いメディアであり、またドラマやスポーツ中継など質の高い優れた番組を提供できるため、その強みを活かした今後の取り組みについてお話し頂きました。その後も各テーブルでは講師・ゲストと塾生との盛んな意見交換や議論が続きました。

懇親会後に塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、スペシャルゲストとして内閣官房の幹部にご出席頂きました。日本経済に関する大所高所からのお話しには、塾生も問題意識を刺激され、熱い議論で盛り上がり、夜遅くまで交流が続きました。



【特別ゲスト 武田氏】



懇親会風景



放談会風景